

付則 専門医の資格申請時に必要な経験症例・症例数および記載方法

A. 呈示症例および症例数

1. 内科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 光線力学的治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- II 群 内視鏡的蛍光診断症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- III 群 腫瘍の焼灼治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- IV 群 呼吸気道および消化器出血に対する止血、凝固治療症例
- V 群 狭窄部の拡張症例(良性および癌性狭窄など)

I～V群の中から合計10症例選択し、呈示する。
ただし、同一部位の再発症例については、同一症例とする。

2. 外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 光線力学的治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- II 群 内視鏡的蛍光診断症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- III 群 腫瘍、肉芽の焼灼治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- IV 群 微小血管、組織の止血、凝固、切開症例
- V 群 血管形成術症例(閉塞性動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞など)

I～V群の中から合計10症例選択し呈示する。
ただし、同一部位の再発症例については、同一症例とする。

3. 産婦人科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 蒸散術症例(子宮腔部びらん、子宮頸部異形成など)
- II 群 円錐切除術症例(子宮頸部の異形成、上皮内癌、微小浸潤癌など)
- III 群 焼灼術症例(腔上皮内癌、コンジローマ、頸管ポリープ、分娩筋腫、腔断端肉芽、バルトリン嚢腫開窓術など)
- IV 群 腹腔鏡下手術症例(不妊症、子宮内膜症、婦人科癌など)

I～IV群の中から2群以上を選択し、合計10症例を提示する。

4. 泌尿器科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 上部尿路結石破砕治療症例(経尿道的、経皮的:腎・尿管結石など)
- II 群 下部尿路結石破砕治療症例(経尿道的:膀胱結石、尿道結石など)
- III 群 尿路狭窄治療症例(経尿道的、経皮的:尿管狭窄、腎盂尿管移行部狭窄、尿道狭窄、後部尿道弁など)
- IV 群 尿路上皮腫瘍治療症例(経尿道的、経皮的:腎盂、尿管、膀胱腫瘍など)
- V 群 前立腺肥大症治療症例(経尿道的:高温度、凝固、切開、蒸散、核出術など)
- VI 群 外性器腫瘍症例(陰茎癌、尖圭コンジローマなど)

I～VI群の中からI群およびV群(必須)を含み3群以上を選択し、合計10症例呈示する。ただしI群およびV群については各2例以上を含むこと。

5. 眼科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 レーザー光凝固症例(糖尿病網膜症、網膜中心静脈閉塞症、網膜静脈分枝閉塞症、網膜裂孔など)
- II 群 後発白内障治療症例(ネオジウムYAGレーザーなど)
- III 群 レーザーによる緑内障治療症例(線維柱帯形成術、虹彩切開術など)
- IV 群 光線力学的治療症例(加齢黄斑変性症など)

I および II 群を必須項目とし、合計10症例を選択し、呈示する。
糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術では、一連の治療を一症例とし、追加凝固は含まれない。また、両眼のものは、一眼毎、計2症例とすることが出来る。
III、IV群での症例で、I、II群の症例に代えることは可能とする。

6. 耳鼻咽喉科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 耳科領域症例(鼓膜切開術、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、あぶみ骨手術など)
- II 群 鼻副鼻腔領域症例(アレルギー性鼻炎、肥厚性鼻炎、慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢胞、涙嚢鼻腔吻合術、後鼻孔閉鎖症、鼻出血、良性腫瘍など)
- III 群 口腔咽頭領域症例(アデノイド切除術、口蓋扁桃摘出術、口蓋垂・軟口蓋・咽頭形成術、舌根正中部分切除術、良性腫瘍、悪性腫瘍など)
- IV 群 喉頭気管領域症例(喉頭気管狭窄、喉頭肉芽腫、両側喉頭麻痺、喉嚢嚢胞、ポリープ様声帯、良性腫瘍、悪性腫瘍など)

I～IV群の中からII群およびIII群(必須)を含み3群以上を選択し、各群の()内に示した術式あるいは疾患の中から合計10症例を選択し呈示する。
ただしII群およびIII群については各3例以上を含むこと。

7. 皮膚科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 異常メラニン系症例(母斑細胞母斑、太田母斑、扁平母斑、老人性色素斑、黒子など)
- II 群 異常血管系症例(単純性血管腫、莓状血管腫、毛細血管拡張症など)
- III 群 その他の皮膚疾患症例(疣贅、脂漏性角化症、線維腫など)
- IV 群 美容系症例(脱毛、小ジワ、タルミ、痤瘡癍痕など)
- V 群 低レベルレーザー治療(LLLT)症例
- VI 群 光線力学治療症例

I～VI群の中からI群およびII群(必須)を含み3群以上を選択し、合計10症例選択し呈示する。ただしI群およびII群については各2例以上を含むこと。
I群、II群にあつては部位と大きさを問わない。

8. 形成外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 異常メラニン系症例(母斑細胞母斑、太田母斑、扁平母斑、老人性色素斑、黒子など)
- II 群 異常血管系症例(単純性血管腫、莓状血管腫、毛細血管拡張症など)
- III 群 その他の皮膚疾患症例(疣贅、脂漏性角化症、線維腫など)
- IV 群 美容系症例(脱毛、小ジワ、タルミ、痤瘡癍痕など)
- V 群 低レベルレーザー治療(LLLT)症例
- VI 群 光線力学治療症例

I～VI群の中からI群およびII群(必須)を含み3群以上を選択し、合計10症例選択し呈示する。ただしI群およびII群については各2例以上を含むこと。
I群、II群にあつては部位と大きさを問わない。

9. 麻酔科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 頭痛、顔面痛症例（筋緊張性頭痛、後頭部痛、三叉神経痛、顔面神経痛など）
- II 群 脊椎由来の疼痛症例（各種脊椎症、頸肩腕症候群、神経根症、胸背部痛、腰下肢痛、椎間板ヘルニア、脊柱間狭窄症など）
- III 群 運動器由来疼痛症例（関節痛、筋肉痛、腱鞘炎など）
- IV 群 带状疱疹、带状疱疹痛、带状疱疹後神経痛の症例
- V 群 神経因性疼痛症例（複合性局所疼痛症候群、幻肢痛、レイノー病、振動病など）
- VI 群 血管因性疼痛症例（バージャー病、閉塞性動脈硬化症など）
- VII 群 難治性皮膚潰瘍症例（褥創、火傷後など）
- VIII 群 癌性疼痛関連愁訴症例（筋緊張などに由来する痛み）

I～VIII群の中からIIおよびIII群（必須）を含み3群以上を選択し合計10症例を提示する。

10. 整形外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 疼痛緩和治療症例（関節痛、神経痛、滑液包炎、腱鞘炎、CRPSなど）
- II 群 血行改善治療症例（糖尿病性壊疽、レイノー症候群など末梢循環障害）
- III 群 創傷治療症例（褥創、肉離れ、難治性潰瘍、新鮮骨折など）
- IV 群 微小血管の止血、切開、組織の収縮・凝固症例（関節包収縮、外側支帯切離など）
- V 群 蒸散術症例（滑膜切除、関節内遊離体切除、椎間板除圧術など）
- VI 群 光線力学的治療症例（感染症治療、腫瘍治療など）

I～VI群の中から合計10症例を選択し、提示する。ただし各群は、3症例までとし、同一部位の再発症例については、同一症例とする。

11. 脳神経外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 術中蛍光診断症例（脳腫瘍、血管など）
- II 群 光線力学的治療症例（脳腫瘍など）
- III 群 焼灼治療症例（脳腫瘍および椎間板ヘルニアなど）
- IV 群 凝固、切開症例など

I～IV群の中から合計10症例を選択し、提示する。
同一部位の再発症例については同一症例とする。